

被災地小学生20組を招待

交通管制システムなど見学

首都高速道路は20日、開通50周年記念事業の一環として、東日本大震災被災地の子供たちを招待して首都高施設などを見学してもらった。首都高子ども支援プロジェクトも支援プロジェクト「東京へようこそー泊2日ツアー」を開いた。

開催にあたり、菅原秀夫代表取締役社長は「首都高は都心部にあることもあり、8割が高層で、1割がトンネ



交通管制システムを見学する小学生ら

ルでできている。グループ会社を含めた社員は、利用者がこれらの施設を安全・安心に利用できるよう努力している」と首都高の取り組みを紹介するとともに、「今日は交通管制システムや大橋ジャンクションを見学し、明日は、東京都内の観光も予定しているの、素晴らしいイベントを楽しんで、力を蓄えていたいただきたい」と呼びかけた。

首都高・50周年記念事業

子ども支援プロジェクトは、応募があった400通の中から抽選で選ばれた宮城県石巻市の小学4年生と6年生とその保護者20組40人を東京へ招待。フューチャーイノベーションフォーラム（FIF）の協力のもと、20日に交通管制システムや大橋連絡路シールドトンネル工事現場、大橋ジャンクション屋上のおおはし里の杜を見学、きょう21日には首都高を使って東京都内観光を行う予定だ。